

令和7年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」成果報告書  
「地域と都市住民の交流を通じたSDGs推進プログラムの構築」

広島工業大学 環境学部  
教授 森田 秀樹

1 大学等名	学校法人鶴学園 広島工業大学	
2 教育研究活動	区分	⑧圏域内産品の地産地消
	テーマ	地域と都市住民の交流を通じたSDGs推進プログラムの構築
3 連携した市町	北広島町	
4 連携した企業、団体等	きたひろジビエコンソーシアム, 株式会社中原ファーム	
5 参加学生	工学部電子システム工学科 1名(3年) 工学部知能機械工学科 3名(3年) 環境学部建築デザイン学科 30名(1・2・3・4年) 環境学部地球環境学科 3名(2年) 合計 37名 ※3イベントの延べ人数	

## 1. 背景及び目的

2030年を達成年とする17の目標、169のターゲットからなるSDGsが強く推進されているが、我が国の達成度はヨーロッパ諸国に比べて低い水準にとどまっている。特に地方部においては、SDGsに関する情報や接点の不足により自分事として捉えにくい環境にあることや、過疎化に伴う担い手不足により、活動の広がりが十分とは言い難い。一方で、都市部住民はSDGsへの理解度は高いものの、地方の実状に対する認識が不足しているという課題がある。そこで本事業では、最も身近な「食」をテーマに据え、学生が主体となって企画・運営する2つの異なる手法によるイベントを、地域住民・都市住民・学生の3者が交流する場として実施する。これらの活動を通じて得られたデータを比較・分析することで、地域に定着するSDGs推進プログラムの構築を目指す。

## 2. 実施方法

広島工業大学と包括連携協定を締結している北広島町を対象地域とし、以下の2つのイベントを学生主体で実施した。いずれも『食』に関連する内容とし、一方をSBL(Subject-based Learning, 科目進行型)形式で実施し、他方をPBL(Problem-based Learning, 問題解決型)形式で実施した。効果の検証は、イベント実施時及び一定期間経過後のアンケート調査により行い、SDGsに関する継続的な取り組みについて比較・分析した。これらを踏まえ、次年度以降のSDGs推進プログラムを構築した。

### (1) イベント1「ジビエから考えるSDGs」【SBL形式】

- ・開催日時：2025年8月8日(金) 11時～15時
- ・開催場所：北広島町まちづくりセンター きたひろホール
- ・参加人数：44名

中山間地域の持続可能な農林業を妨げるものとして、イノシシやシカなどの獣害が挙げられる。このような野生鳥獣肉をジビエとして利用する取り組みは全国に広がりつつあり、北広島町では2025年3月に食肉加工施設がオープンした。このような北広島町における野生鳥獣被害の実態や活用を理解するため

に、きたひろジビエコンソーシアムの工藤悠太氏、上田翔氏を講師に招き、講演会を開催した。講演後にはジビエの試食会を実施し、イノシシ肉のタコスや、イノシシ肉とシカ肉の食べ比べを通じて食材への理解を深めた。試食後、参加者を対象としたアンケート調査を実施した。なお、全参加者を対象に、4か月後となる2026年12月に再度アンケートを実施し、イベントの記憶やSDGs行動について調査した。



ジビエコンソーシアムによる  
講演会



ジビエ試食会



北広島町及び広島市からの参加者(親子含む)

## (2) イベント2「地域の野菜から考えるSDGs」【PBL形式】

### 【1回目】 レシピ考案

- ・開催日時：2026年1月10日(土) 13時～15時
- ・開催方法：オンライン
- ・参加人数：28名

広島県では、古くから栽培されてきた在来品種が「広島お宝野菜」として継承されるなど、特色ある地域野菜が豊富に存在する。本イベントでは、北広島町で生産されるベジパ(規格外野菜を活用したパスタ)及び地域食材を用いたレシピ考案イベントを開催した。参加者は事前にベジパを試食し、地域食材に関する調査を行った上で当日のワークショップに臨んだ。当日は3グループに分かれてレシピを考案。各班による発表後、最優秀レシピの選定および講評を行った。イベント終了後には、参加者を対象としたアンケート調査を実施した。

### 【2回目】 講演会・試食会

- ・開催日時：2026年1月24日(土) 13時～15時
- ・開催場所：広島工業大学 スカイテリア/リーフガーデン
- ・参加人数：23名

ベジパの開発・生産者である多川純利氏を講師に招き、講演会を開催した。講演後、最優秀レシピを北広島町の食材のみを用いて再現し、参加者による試食会を実施した。最優秀レシピ賞の表彰式を行った後、参加者を対象とした2回目のアンケート調査を行った。



ベジパ開発・生産者による  
講演会



最優秀レシピの試食会



最優秀レシピグループによる  
紹介

### 3. 結果及び考察

下図は、各イベントでの理解度を男女別、職業別に示したものである。



イベント理解度の男女別比較

イベント理解度の職業別比較

以下、アンケート調査の比較・分析から得られた結果及び考察を記す。

#### [1] 性別による効果の違い

- ・男女ともに、SBL よりも PBL の方が「今後の行動意欲」「再参加希望」が高い傾向が見られた
- ・特に女性参加者においては、自由記述から、「自分の生活に結びつけて考えられた」、「他者の意見が参考になった」といった記述が多く見られた。
- ・一方、男性参加者では、SBL においても理解度は高く評価されていたが、行動意欲の項目では PBL でより高い評価が確認された。

⇒ PBL は性別を問わず行動変容を促すが、対話や共創の要素が特に女性参加者に強く作用した可能性がある。

#### [2] 年齢別に見た学習効果の違い

- ・若年層(大学生以下)では、PBL において「楽しかった」「主体的に参加できた」といった評価が高い傾向が見られた。
- ・中高年層では、SBL において、SDGs や地域課題への理解度が高く評価されていた。

⇒ 年齢が低いほど体験型・参加型学習が有効であり、年齢が高いほど体系的な講演形式が理解促進に寄与する可能性が示唆された。

### [3] PBL が行動につながった要因

・PBL では、「地域野菜から学ぶ SDGs」のイベントのレシピ考案のワークショップより、自ら考え、意見を共有し、成果としてアウトプットするというプロセスを含んでいた。そのため、学習内容が「知識」ではなく「経験」として記憶に残りやすかったと考えられる。さらには、「楽しかった」、「みんなで一緒に考えているんな意見がでて面白かった」などの感想から、感情的にも好印象だった。

PBL では、自ら考え、意見を共有し、成果としてアウトプットするというプロセスを含んでいた。

・そのため、学習内容が「知識」ではなく「経験」として記憶に残りやすかったと考えられる。

⇒ PBL は参加者属性に関わらず、体験型学習は楽しみながら自ら考えることで印象・記憶に残りやすく、即効性が高い学習手法であることが示唆された。

### [4] 4 か月後アンケートから見た持続性の違い

・ジビエ 4 か月後アンケートでは、SBL 参加者では、理解は維持されているものの、行動に結びついていない回答も一定数見られた。また、講演型学習は知識理解に強いが 4 か月後には SDGs 意欲が薄れていたことから、印象・記憶には残りにくいと推察された。

⇒ 短期的理解には SBL が有効である。

### [5] 性別・年齢を踏まえた学習手法選択への示唆

・SBL：幅広い年齢層に対して、効率的に知識を伝達するのに有効。

・PBL：年齢・性別を問わず、行動意欲や継続的関心を高める効果が期待できる。

⇒ 学習目的や対象者の属性に応じて、SBL と PBL を適切に使い分けることの重要性が明らかとなった。

## 4. SDGs 推進プログラムの提案

得られた結果を分析し、次年度以降に実施する SDGs イベントを企画した。北広島町からの意見を加味した以下を提案する。

SBL イベントの提案 『北広島町のお米プロジェクト』	・対象：鶴学園(親)、大学生、教員 ・実施場所：広島工業大学 ・講演テーマ：北広島町のお米はなぜ消えかけている(需要が減っている)のか? ・講師：北広島町農林課
PBL イベントの提案 『北広島町のお米を使った商品開発プロジェクト』	・対象：鶴学園(親子)、大学生、教員 ・実施場所：北広島町 ・ワークショップ：農家ヒアリングの後、グループに分かれてパッケージ案、食堂メニュー企画、防災食のレシピ考案、SNS 戦略案などをグループワーク・プレゼン

## 5. 今後について

・「地域の野菜から考える SDGs」4 か月後のアンケートを、5 月に実施する。

### 謝辞

本事業を推進するにあたり、北広島町役場の田辺康行氏、反田賢太郎氏、齋藤栄一氏には多大なるご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。